「ケアホームハピネス」全景

ArchiCADによる BIM設計を新たな武器に 新世代の“広島派”トレンドを創りだす

田原泰浩建築設計事務所は、一級建築士の田原泰浩氏が率いる設立6年目の若い設計事務所である。同事務所がオフィスを置く広島は、「広島派」と呼ばれる著名建築家を多数輩出し、現在も多くのアトリエ系事務所が競争している。あえてそんな広島を選んでオフィスを開設した田原氏だが、いまやスタッフ2人を加え、着実な成長を続けている。その原動力となっているのが、田原氏が駆使するArchiCADによる新たなBIMの展開だ。アトリエ事務所ならではのBIM活用法について田原氏に伺った。

「群雄割拠」を勝ち抜くためのBIM導入

「広島はアトリエ事務所を構える設計士が非常に多く、有名建築家も多数いらっしゃいます。いわば群雄割拠のここでやっていく以上、同じことをしていては勝ち抜けません」。独立当時を思い出しながら田原氏はそう語る。総合設計事務所の構造設計担当としてキャリアをスタートした同氏は、次にアトリエ事務所で意匠設計を、さらにはゼネコンで施工現場を経験し、建築の一連の流れを体験したのち独立して事務所を構えた。そんな田原氏が他社差別化を図るために重視したのがツールの選択だ。

「当時、広島の設計事務所の設計ツールはJW_cadが一般的でした。そこで独立を機に新しいツールで事務所に付加価値を加えようと思ったんです。特にお客様への訴求力を重視していたので、パース造りに使えるもの探しました。当時は2.5次元CAD等で作るCGパースが主流でしたが、それを真似しても他社差別化にはなりません。そこで思い出したのが、私がゼネコン勤務時代に触れたBIMです」。その数年前に、田原氏は当時の勤務先で別の外国製 BIMソフトに触れ、そのBIMという概念に強い印象を受けていたのだと言う。CGソフトなどで作成したCGパースはどこまでいっても“張りぼて”で、用途はそれほど広がらないが、BIMモデルなら建築のあらゆるフェーズで多彩な図面と連動し、幅広く連携して活用することができるのである。

「将来的にはこのBIMが建築設計の新しい流れになるだろう、と密かに考えていました。しかも、当時はまだBIMを知る人も少なく、私が先行してこれを活用できれば、それだけで他社にない武器になる、と思ったんです」。早速BIMソフトの研究を始めた田原氏は3つのBIMソフトを知り、比較検討を開始。程なくそのうちの1本であるArchiCADの導入を決めた。選択ポイントは、BIMソフトとしての機能に加え、“建築デザインツール”としてのずば抜けた自由度の高さである。ちょうどそのころ、同氏が建築雑誌で見た、建築家 井手孝太郎氏の作品が教えてくれたのである。

「3次元曲面で構成された巨大な貝殻みたいな建築が ArchiCADで設計されたと知り、“これだ”と感じたんです。自分も3次元曲線で構成された建築を作りたかったんですが、そのような3次元的な建物の図面を正確に描くことはすごく大変そうで……。言わば、従前のツールの限界がクリエイティブを制限していたんです。ところが井手さんの作品を見て、ArchiCADならその限界を超えられると気づいたのです」。

田原泰浩建築設計事務所
代表　一級建築士
田原泰浩 氏

田原泰浩建築設計事務所
http://www.yasuhirotahara.jp/
開　　設　2008 年
事業内容　建築設計、監理
代 表 者　田原泰浩
所 在 地　広島県広島市

GRAPHISOFT®
A NEMETSCHEK COMPANY